

# 対策困難箇所事例

事例No.

事例分類

10

幅員の狭い信号交差点

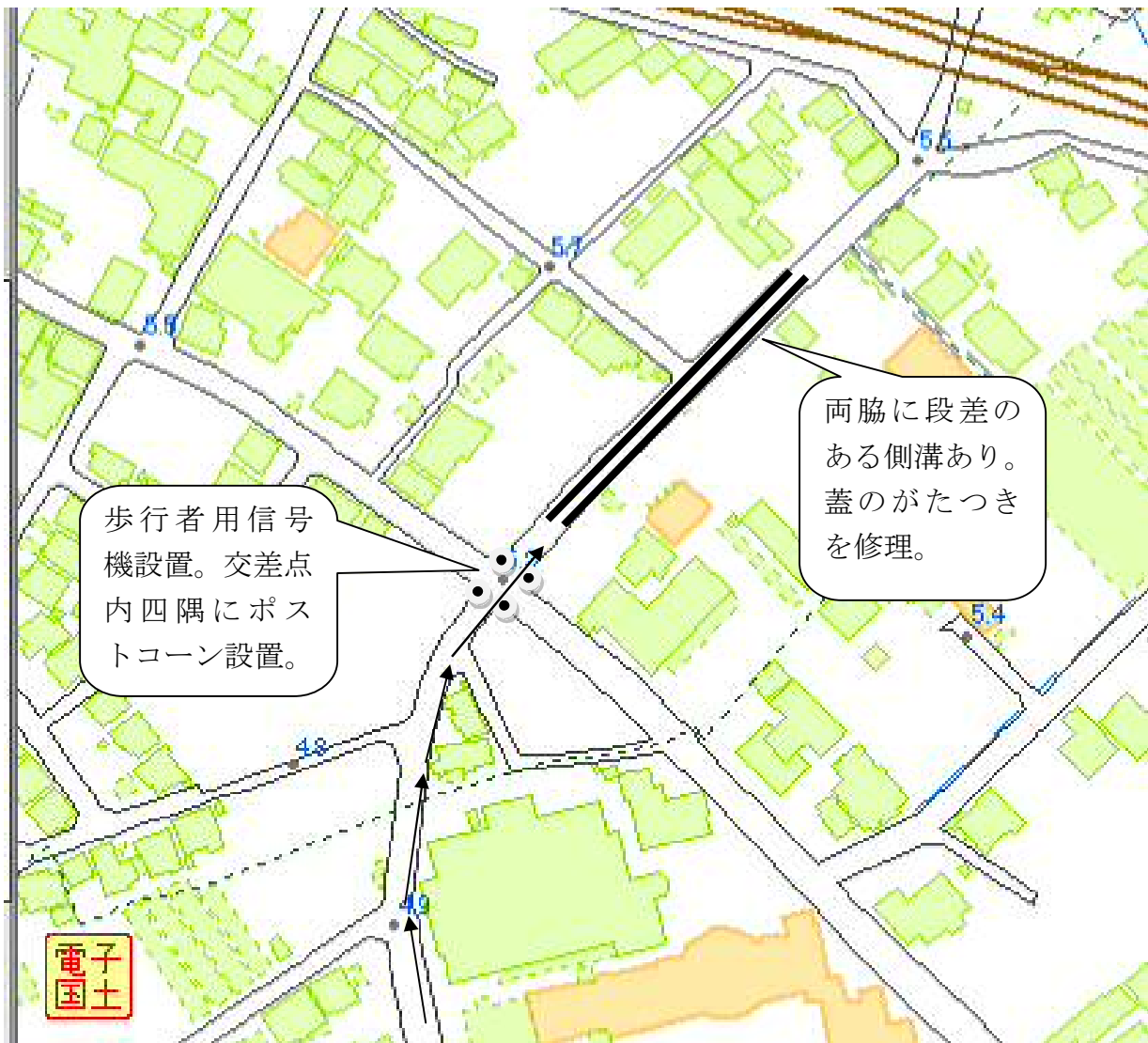
## 1 危険箇所の状況

### ■危険箇所の状況

現場は、小学校通学路上の交通量の多い県道と市道が交差する信号交差点。信号が高い位置にあり、視認しにくい状況である。また、県道とはいえ、幅員が狭いので、車が四隅に近いところをとおり、子どもたちを巻き込まないか心配である。

両脇に段差のある側溝があり、下を向き、その上を歩く児童の列が通る。段差を踏み外し、車道側へ倒れると大変危険である。

### ■通学路地図



## ■現場写真



①交差点から学校方面

②学校方面（左に段差）

③②と反対方向

④段差計測

## 2 市町村連絡協議会における意見

### ■道路管理者

- ・待機するときの危険を少しでも軽減するためにも、ポストコーンを四隅に設置するなどして、運転者への注意喚起をする。
- ・側溝の蓋のがたつきを減らす方向で、点検する。

### ■警察署

- ・交差点内に新たにポールを立て、歩行者用信号機を設置し、歩車分離方式とするなどして、車に不便をさせることが交通事故の抑制につながると考える。



### ■アドバイザー

- ・段差の解消を。市の対策を例示していただく。 →

## 3 対策（案）

### ■道路管理者

- ・ポストコーンの設置（本年度中）
- ・蓋については、修理を図るが、それ以上の施工は未定。

### ■警察署

- ・歩行者用信号機の設置。（対策済み） →
- ・歩車分離方式の採用。（本年度中）

### ■学校

- ・側溝の上を一列で歩く。（対策済み）



# 対策困難箇所事例

事例No.

事例分類

1 1

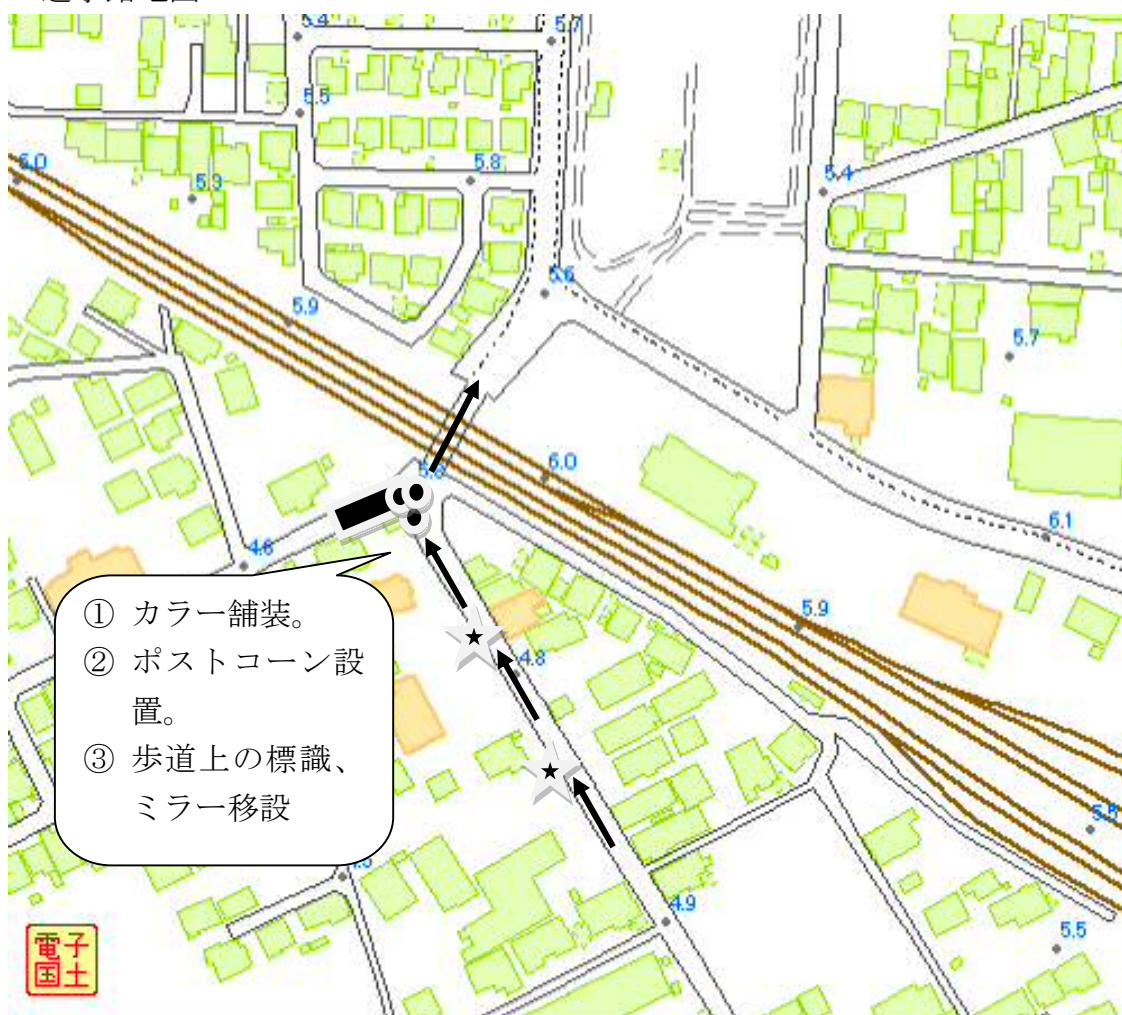
踏切付近の交差点

## 1 危険箇所の状況

### ■危険箇所の状況

現場は、小学校通学路上のJRの踏み切り付近の350名ほどの児童が利用する横断歩道。南西方向から踏み切り方面に向かって車は、かなりのスピードで来る。横断歩道手前の停止線で止まらずに、右方の視界が開けるところまで来てようやく止まるような大変危険な状況がある。下校時は横断歩道の手前に滞留場所がないため、長い列を成すこともある。学校方面も、交通量の多い道で、歩道が整備されているわけではなく、グリーンベルト対応でしのいでいる。さらにグリーンベルト内に、ミラーや標識のポールがあり、車道側に歩行者が膨らむ箇所が2箇所ある。

### ■通学路地図



## ■現場写真



①踏み切り方面

②学校方面

③交差点全景

④学校近辺

## 2 市町村連絡協議会における意見

### ■道路管理者（市道路維持課）

- ・車の速度の抑制を図り、横断歩道前での一時停止を意識させるためにも、カラー舗装による対応を検討している。
- ・滞留場所の問題については、確保が難しい。ポストコーンを数本立てることで、子どもたちの安全確保に努めたい。
- ・歩道上のポールについては、移設の方向で進めていく。

### ■警察署

- ・速度抑制、一時停止の徹底を図るため、取締りの強化。

### ■学校

- ・歩道を広げるためにも、学校の敷地の一部をセットバックし、幅員の確保に努める方向で動いている。

### ■アドバイザー

- ・児童一人ひとりの安全に対する意識の高揚を図る必要がある。
- ・下校時、踏み切りの両側に帯同教員が立つようにするとよい。
- ・踏み切り部が上り勾配の先にある構造に問題がある。一時停止が守られないひとつの要因となる。
- ・滞留場所がほとんどなく、しかもガードレールもない。安全対策を。

## 3 対策（案）

### ■道路管理者

- ・横断歩道手前のカラー舗装（本年度中）、ポストコーンの設置（対策済み）。
- ・ミラー、標識の移設（対策時期未定）

### ■警察署

- ・取締りの強化（随時）

### ■学校

- ・地区の方や教育委員会庶務課とも話をつめ、セットバック化を図りたい。（時期未定）
- ・児童や教員の意識の高揚を図る。（対策済み）